

高齢者を地域で支援

宜野湾市社会福祉協議会(我如古盛吉会長)では、平成18年7月14日から「在宅介護支援員(お助けマン)」の派遣事業を始めた。これは、「地域で支え合う在宅介護」の趣旨の下に、高齢者を在宅で介護する家庭にボランティアの在宅介護支援員(お助けマン)を派遣するもので、このようなボランティア派遣事業は全国でも初の試みとなる。地域で支え合う高齢社会に向け、「お助けマン」の活動が期待されている。

この事業は、県介護実習・普及センターで地域介護支援リーダー養成研修を受講した人を市社協が在宅介護支援員（お助けマン）として登録。2人1組で派遣要請のあった家庭を訪ね、基礎的な介護技術（方法）の指導を行いながら、話し相手や相談に応じるなどして、在宅介護の負担軽減を図るのが目的である。

**全国初 宜野湾市社協
在宅介護支援員派遣事業スタート**

本年度は野嵩三区、新城区、宇地泊区をモデル地区に指定し、次年度以降、市内全域に広げる予定。

同日は市社会福祉センターで委嘱状交付式が行われ、49名に在宅介護支援員の委嘱状が交付された。



▲宜野湾市社協我如古盛吉会長(写真左)より49名の在宅介護支援員へ委嘱状が交付された。

車いすは福祉用具のなかではベッドの次に知られています。最近では障害者や高齢者が車いすで外出する機会も増えそのニーズの高まりとともに、使いやすいものが次々と登場してきています。また、公共建築物などにみられる車いすマークは、障害者のシンボルとして広く知られるようになりました。

車いすは、今や歩行が困難な人を移動させるだけの道具ではなく、障害者自身の足であり、体の一部としての機能が求められています。最近では長時間座り続ける人も増えており、長く過ごす人にはイスとしての機能も欠かせません。ですから座位がしっかりと保てるようにすることも大切になっています。身体を車いすに合せるのではなく、車いすを利用者の身体の状態や体形に合せたものでなくてはなりません。最近では、モジュールタイプといって車いすをいくつかのパーツとしてとらえ、身体の状態に合せて組み立てる調節機能を重視したものが主流になってきました。例えば、座幅が広すぎると身体が傾いてしまうし、自力では移動しにくくなります。車いすの座幅、座面の奥行、車輪の位置、肘掛の高さなどが調節できます。車いすは



障害者の意識を変え、自立範囲の拡大に役かっています。このことにより、ADL(日常生活動作)やQOL(生活の質)は著しく改善されています。

車いすは、一般的には「いす」と言われていますが、材質や構造からは「自転車」に近く、フレーム部(骨組み)、車輪、及び駆動・制御装置などの四つの基本要素からなっています。フレームの構造は折りたたみ式、固定式、分解式のものがあります。各部分の名称は図のとおりです。

高齢者の介護は精神的にも肉体的にも負担が大きいです。が、福祉用具を上手に使うと楽に、楽しく介護ができます。

今回は、福祉用具3種の神器といわれております①ベッド・②車いす・③ポータブルトイレの②車いすについて説明します。

福祉用具を上手に使って「楽々介護」を

事業実施までの経緯と現状

さざなみ保育園は、昭和56年に西原町のサトウキビ畑の真ん中に0歳児から5歳児までの90名定員の保育園としてスタートした。それから25年、時代の流れと共に保育ニーズも多様となり、学童保育事業の開始や園舎移築と定員増(現120名定員)、育児支援事業の開始、さらに

開
始
年
月
日

昭
和
56
年
4
月
1
日

◎子育て支援センター
(平成18年4月)

◎一時保育・延長保育
(平成13年4月)

◎学童保育「学童ミッキークラブ」
(平成7年4月)

法人・施設および事業の概要
 法人名／社会福祉法人すかんぽ福祉会
 理事長名／宮城 邦子
 事業所名／さざなみ保育園
 事業の内容／

法人から発信！

このコーナーは社会福祉法人の活動を広く県民へPRしていくと共に、取り組みのきっかけとなるような施設側の様々な実践事例を紹介しています。

延長保育や一時保育の開始、今年度4月には30名定員の分園も開園した。現在、さまざまな保育園では160名以上の園児を預かっている。

さざなみ保育園の特色

一日の大半を保育園で過ごす子どもたちが、心豊かに伸び伸び育つようにと、常に情緒が安定するような保育環境を整え、適度な教育的刺激によって心身の諸能力の発達を助長することを保育方針としている。そして、冬でも半そでと半ズボンの「薄着保育」をすることにより、のびと過ごすことができるよう、子どもたちの健康増進に力を入れる。また、リトミックや造形、英会話など週1回外部講師を招いての保育活動も活発である。子ども一人ひとりの欲求を満たしつつ、養護と教育とが一体となって、豊かな心をもった子どもを目指し、頭・体・心の三つを同じに満足させる保育を目標としている。

分まで。18時15分から19時15分までは「延長保育」である。保護者のシフトによつては保育時間内に間に合わない場合も、慌てずに迎えに来ていただけるようだ。「一時保育」とは、園外の保護者が通院や就職の面接などの用で家庭保育ができない場合、一時的に預かる保育である。「学童保育」は、小学校一年生から三年生までの児童が対象。夏休みや冬休みなどの長期休暇も保育しており、常に保育園内は子どもたちの声でにぎわっている。



▲「たのシ～サ～♪♪」

している。家庭保育をしている親子が保育園の園内で遊ぶことができ、それも町内外の在住を問わず無料で利用できる。交流保育も頻繁に行い、運動会などの大きな行事にも親子で参加している。保育士が行なう指遊びや歌などを覚えて子どもと家庭でも楽しむことができる。そして親同士の情報交換や仲間作りが育児不安を緩和させて、上手に子どもと向き合っていく様子が見られる。場所を提供するだけで、支援の力になることがはつきりわかる事業の一つだという。

今後の展望

現在、「一時保育」の申し込みが大変多く、一日に受け入れる人数にも限りがあるので、せっかく電話をいただいたいても「空き待ち」をしていただけ状況であるとのこと。一時保育ですら待機児童が出る現状。就職しなくては認可園に申請できない保護者たちは、面接のための預け先にも頭を抱えているとのこと。安心して産み、育て、働くというために必要な環境をどのように支援していいのか、同時に園児たちの健やかな育ちに妨げになっているものを見過ごしではないか、瞳を凝らして耳を澄ませて、考え続ける事業を行っていききたいと思う日々だという。

「さざなみ保育園」住所 西原町字安室196-1 TEL 098-945-1164